

新森中央公園

区画整理事業と公園

大阪市の公園造成は、大正末期から昭和戦前にかけて、大阪市が市域周辺地区の農地の宅地化を推進する土地区画整理事業の中で進められた。

旭区においても、土地所有者の組合施行により、農地を対象に道路が新設・拡幅された。各地区に公園そして宅地が整備されることになり、昭和7年(1932)市民の憩いの広場として、新森中央公園（当時は森小路公園）が現在の新森4丁目に完成。面積は8,809平方メートル、園内には藤棚、砂場、水飲み場、便所な

どが整備された。

公園内には現在、森小路遺跡の石碑が建立されている。これは昭和6年(1931)この辺りで弥生式土器や石器が発見されて遺跡の存在が明らかになり、当地が弥生時代の代表的な集落遺跡であったことが判明したからである。

当時大阪平野に広がっていた河内潟という内海の中の微高地に位置し、その範囲は新森中央公園を中心に半径300～400メートルにわたると考えられている。



図■昭和11年(1936) 地図

資料提供：大阪市史編纂所

公園愛護会の誕生

昭和16年(1941)太平洋戦争が勃発すると、次第に物資の窮乏と流通が混迷の様を呈するといった世情になり、戦時中の食糧難を補うため、付近住民の人々により公園は菜園化し、敗戦後は虚脱状態の中であって誰ひとり公園を顧みる者もなく荒れるにまかせていた。

そのような状況の中、いち早く戦後復興を願う地元

市議員と地域住民の協働により、昭和25年(1950)名称が新森小路公園と改められるのと同時に、全市の愛護会の草分けとして新森小路公園愛護会が誕生した。

公園愛護会の事業として、昭和28年(1953)には、盆踊り、素人のど自慢、また園内に青空スクリーンを設置しての映画会が催された。特筆すべきは、社会奉

仕活動として今日まで連綿と受け継がれてきた公園の定期清掃がこの年から始まったことである。

翌昭和29年(1954)には植木市が開かれ、また公園祭りが実施されることになり近隣の清水小学校、新森小路小学校、旭東中学校の参画による有志舞踏や漫才・浪曲・曲芸などが演じられた。

昭和30年(1955)には初代の噴水池が竣工し、動物園よりガチョウ2羽、鯉15匹が寄贈され、竣工式典では大阪市警視庁音楽隊による演奏に合わせ伝書鳩50羽が放たれ大空を舞った。「ひょっとして、公園に居着いている鳩の中に当時の子孫がいるかも…!」そして翌年、園内の南西角に児童館が建設された。

昭和32年(1957)、まだテレビが一般家庭に普及し

新森中央公園に改称

以降、公園愛護会の事業推進の中で、植木市、大運動会（子供の日）、夏休みのラジオ体操、盆踊り、旭区民大会、公園祭りが毎年開催された。日本初の万国博覧会が千里で開催された昭和45年(1970)頃は、高度成長期と相まって地域住民の増加により各催しの参加者も大変多く、盆踊りなどは6、7重もの輪ができ、非常に込み合った中で老若男女が踊りに興じ大盛況の様相であった。また7～9月の8が付く日には、公園の周辺にいつの頃からか夜店が多数出るようになり、子供達で大いに賑わったものである。昭和47年(1972)新森小路公園から新森中央公園に改称。昭和56年(1981)自動放送設備付きの時計台が新設され、翌年には地域の集会場を建設するため児童館が無くなり、昭和58年(1983)に跡地の南西角に新森会館

装い新たな公園の姿

新森地区公園愛護会は、新森中央公園を核とする北・東・南・南小公園と計5つの連合組織で、現在会員数約2,700人。これまでに市民表彰をはじめ建設大臣賞、総理大臣賞、平成17年(2005)には春の緑綬褒章を受章。

参考文献：旭区史 新森中央公園愛護会のしおり

ておらず、大阪テレビより園内にテレビ（当時は白黒）が設置されることになった。以降は放送開始の夕方頃からテレビ塔の前に力道山のプロレス番組など放映を観る（場所取りをする人も多く）黒山の人だかりができた。テレビ塔は、その後テレビが急速に普及したのに伴い、5年後の昭和37年(1962)に撤去された。



写真■昔の新森小路公園

が竣工。同年公園東側に道端広場とゆずり葉の道が完成した。昭和62年(1987)には、永年にわたり地域住民に親しまれてきた噴水池が大改造され、周辺も装いを新たにして現在の公園の姿となっている。



写真■新森地区公園愛護会 公園祭り 於新森中央公園



写真■現在の新森中央公園